

愛知サークル1 2月例会報告

2020年12月19日(土) 名東小 参加：8名

◎ ブックレット 第1部

P.8～9の中で、発見したことや疑問に思っていることの発表と学びあい。

②の個性について

「個性をどう磨くか」：本人のよさを気づかせてあげるのが教師の役割だ。例えば、絵を描きたいという気持ちにさせて、そうになったら「じゃあ、こう描くといいよ。」と教えてやる。映画評論家の淀川長治は、「一流を知りなさい。最低を知りなさい。」と言ったのは、それにより「物差し」ができるからだ。作家の野坂昭如は「個性と価値は自分でつくるものだ。」と言った。そして、場数を踏むことによりその「物差し」はできる。一流・本物を知ると、見抜くことができる。見る目が、個性を磨くことにつながるので、教師は一流・本物を見て、教師の脳みそを磨くべきである。そして、授業の中で個性を子どもに出させるように、常にアンテナを張って見つける。その際、大事なことが教師のフィルターである。その子の癖、生の個性を生かせる場所で生かす「適材適所」(法隆寺の宮大工：西岡常一)である。

I 文学教材の追求

1. 「大造じいさんとがん」(5年) 記録と映像

- 子どものキラッと光る発言を拾えていない。
- 教師の側に、大問題解決に向けての武器が少ない。
- 子どもがノートに書いてあるのを読むのは、話し合いではなくただの発表会。
- 対話こそ思考力を鍛え育てる。
- 教師は授業において指揮者である。教育に対するポリシーをもって、周りには理論武装するだけのぶれない信念をもちたい。

2. 「大造じいさんとがん」(5・6年) 記録と映像

- 「じゅうを下ろした原因は驚き」だが、「射程距離に入った驚き」と「突然、はやぶさにぶつかった驚き」の異なった驚きの対立ができた。この二つの驚きの対立で入ったのはよかった。ただ、その解決の仕方は、時系列で交通整理してやればよかった。ぶつかっていないのに、驚くわけはないからそこで「突然、はやぶさにぶつかった驚き」は、解決してやればよい。
- 映像からは、子どもたちが物語に入り込んで楽しんでいるのが伝わる。
- 教師がやや強引に引っ張っている感がある。子どもから引き出せるとよい。

3. 「ごんぎつね」(4年) 記録と映像

「こっそり」が知ってほしい側の証拠の言葉になってしまい授業者は困った。

- 「こっそり」以外に決着をつけられるようにする。
- 「その明るる日も」の「も」をしっかり押さえる。「行くはずがないのに行った」の「も」。知ってほしければ、「も」ではなくて「そして、次の日」と書く。「その明るる日も～」の一文で授業をするとよい。

クラスが落ち着いて感じて、声や話し方がよい。1年目から挑戦しているのが素晴らしい。

4. 「ごんぎつね」(4年) 映像

- グループのまま話し合いに入っている。配慮が必要。
- 意見を言う子が多く、子どもが解放されている。
- 気楽に進めている感があり、「聴く」という意味では雑さがある。

5. 「世界一美しいぼくの村」(4年) 解釈

六場面の3段落についてn、それぞれの問題を出し合った。

⑦・1日いなかただけなのに、なぜ、「世界一美しいぼくの村」なんていうのは変だ。1日いなか

っただけなのに、とてもなつかしいなんて変だ。

- ・美しいって何。見た目か、そうじゃないか。
- ・「大よろこび」って、何？願いは何？
- ・ヤモの1日は、どんな1日なの？
- ・一場面では「あまいかおり」といっているのが、「なつかしいにおい」に変わっているのはなぜ？

⑳「ヤモは、そっとつぶやきました。」のそっとは変だ。なぜ、そっとつぶやくのか。

うちの家族がふえたんだよと、羊を家族いというのは変だ。

㉑春はまだ先なのに、「バハール（春）」という名前を付けるのは変だ。原因は何か。

これらの問題から、大問題を

「『パグマンはいいな。世界一美しいぼくの村』といったわけは何だろう。」

とした。

Ⅱ「表現教材」の追求

【体育】「側転」（5年）

- ・「すいあげ」の時点で決まる。